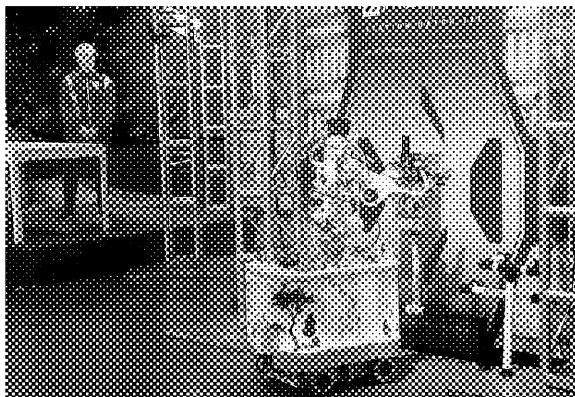


三菱電、分身ロボ事業化へ

個人プレーがチームの利益を生むきっかけに。そんな好事例が三菱電機で起きつつある。同社先端技術総合研究所で遠隔操作技術を研究する春名正樹氏は、2018年から4年かけて競う分身ロボット競技会に個人でエントリー。関西大学の教授らとともに、世界820チームが競うコンペを勝ち進んだ。決勝は三菱電機の協力を得て日本チームで最高位の12位を獲得。技術が評価されたことで、会社として事業化の段階に移る。

(大阪・大原佑美子)

「個の挑戦」会社動かす



春名氏は、三菱電機 名氏は今後、同ロボがで途上国に滞在した経 遠隔コミュニケーションシ 験がある。低賃金で朝 ンを伴い人作業を遠隔 から晩まで働く生活で 代替するようになるこ も、十分幸せ」と話す 予測。身体部分のマニ 現地の人々に触れた。 ピュレーター(腕)と 一方の日本は労働力不 心を現すコミュニケーション 足にあえぐ。「人口の ションロボを分離して 偏在を遠隔ロボで解決 全方向移動台車に乗せ したい。4年間集中的 る、シンプルでユニー に取り組めば早く解決 くなロボシステムでコ できるかもしれない」 ンペに臨んだ。

と分身ロボ競技会「X コンペでは、多くの PRIZE/AVAT チームが人型ロボとへ AR」に応募。負けた ッドマウントディスプレイ ときの会社への影響を レー(HMD)による 考え、個人での挑戦を 直感的操作が可能な遠 選んだ。

遠隔作業ロボは医療 隔操作ロボで参加し た。ただ、これは高価 教授の協力もあり、米 障害現場などで既に かつ複雑で、春名氏が ロサンゼルス市での決 実用化されている。春 目指す「誰でも使え 勝に進める20チームに

国際大会で技術評価

「コンセプトから外 る。春名氏の友人で 21年にチームに合流 した。後に三 菱電機社員 田晋氏は審 得られた。

入国時の手続きなど 同社間接部門の協力も

「人型でな めて触れるオペレータ ーがロボを操作し、タ アプローチ スクリアや操作性な が良い、と どで競う。賞金総額1 000万ドル(約13億 円)を感じ 巴)は逃したが、「イ た」と振り ベントにとどめず25年 返る。

めどに事業化して社会 荻野正樹 貢献したい」(春名 関西大学教 氏)と次なる目標もで 授の認知口 きた。同ロボを活用 ボティクス し、途上国の人がスマ の知見や、 ートフォンで操作すれ 遠隔操作に ば、日本のコンビニの 不可欠な通 レジ打ちや掃除などの 信分野を専 仕事を得られる仕組み 門とする田 などを想定する。

頭茂明同大 組織風土改革を進め

残った。「戦略は間違 っていない」(春名 氏)と感じ、会社とし て支援してもらえよう 上司に懇願。三菱電 機×関西大学の共同チ ームとして活動できる ようになり、ロボの出 入国時の手続きなどで 同社間接部門の協力も 得られた。

決勝はシステムに初 査の際に

する新制度の導 入を決めた。今 回の成功事例や 新制度などで、 社員の自律的な キャリア形成と 革新的事業の創 出に弾みがつき そうです。

「XPRIZ E/AVAT A R」決勝「25 年めどに事業化 したい」と語る 三菱電機の春名 正樹氏(左)